



さい帯血バンク NOW

第20号

2004年12月15日発行
日本さい帯血バンクネットワーク
発行者：鎌田薫(会長)
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社東館6階
TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417 <http://www.j-cord.gr.jp/>

5周年大会に250人

平成11年8月に設立総会を開いて発足した日本さい帯血バンクネットワークは、今年は設立から5周年という節目の年を迎えました。これを記念して、10月16日に有明の東京ビッグサイトで記念大会を開催しました。
＝大会関連の記事2～3面に

午前中は全国の採取病院スタッフの意見情報交換会が開かれました。また、午後からは記念式典と報告会としてさい帯血バンク事業5年間のあゆみと、最新のさい帯血移植データの成績も明らかにしました。さらに、最近顕著になっている高齢者へ

のさい帯血移植として、社会復帰された移植経験者も体験談を語っていただきました。この記念大会の参加者は、総数で約250名あり、全国から関係者が駆けつけるとともに、さい帯血移植とさい帯血バンクに興味をお持ちの一般の方も多数が参加し

ました。なお、当初予定していた懇親会は諸般の事情により中止となりました。ご迷惑をおかけした皆さんにお詫び申し上げます。

「きずなちゃん」です
名付け親は石田範子さん

非血縁者間移植2000例突破

わが国における非血縁者間のさい帯血移植数は、本年11月4日に累計で2000例を突破しました。7年前に第1例目が実施されて以来、1000例に達したのが昨年6月12日でしたから、あれからわずか1年5カ月ほど

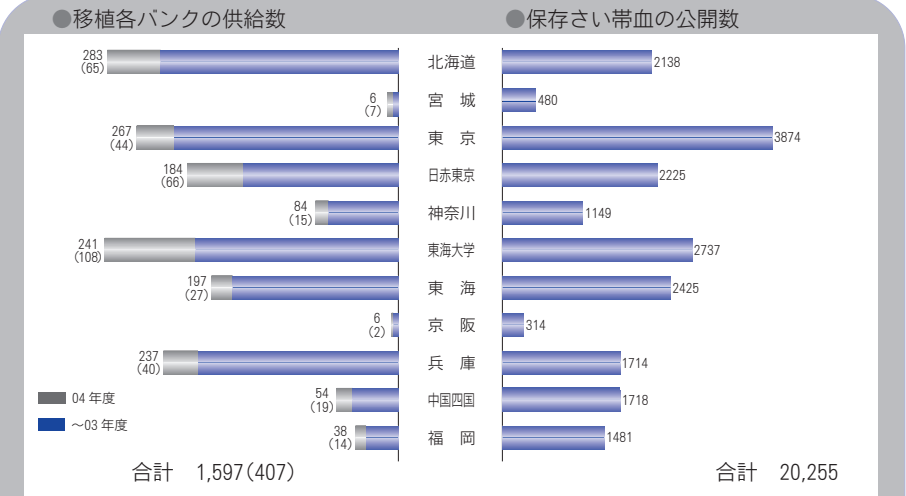
でさらに1000例のさい帯血移植が実施されたこととなります。いかに多くのさい帯血移植が行われているかがおわかりいただけるでしょう。なお、2000例突破の内容については、本誌次号で詳しくお伝えします。



日本さい帯血バンクネットワークでは設立5周年を記念して、漫画家のやなせたかし氏のご協力でシンボルキャラクターを作成しました。このキャラクターは、今後のさい帯血バンク推進運動で活躍することになります。愛称を広く市民の皆さんにつけてもらうべく公募しました。

9月20日の締め切りまでに1026通の応募があり、ネーミングは792種類になりました。その中からやなせ氏を委員長とする選考委員会によって、愛称は『きずなちゃん』と決定し、記念大会で発表が行われました。

「きずなちゃん」と書いて応募した方は21名いましたが、抽選で石田範子さんにシンボルキャラクターの原画がプレゼントされました＝石田さんと鎌田会長。



(注) ① グラフデータは、2004年10月末現在
② 左のグラフの数字はカッコ外が～03年度、カッコ内が04年度移植供給数
③ 左のグラフは供給数であり、複数さい帯血同時移植（2本のさい帯血に同時に移植）が11例行なわれているため、累積実施移植数は1993例。複数さい帯血同時移植は、02年度3月、03年度4月、5月、7月、10月、2月、04年度4月、5月に実施。



情報意見交換会に「再開催」の要望

5周年記念大会開催日の午前に行われた全国採取病院スタッフ情報意見交換会では、参加者全員にアンケートをお願いいたしました。アンケートには意見交換会での感想や意見、日頃おこなっているさい帯血の採取や、さい帯血バンク事務局に対して思っていることについて、自由に書いていただきました。

アンケートの中で、プライベートバンクの対応についての問題、土日にさい帯血が採取できないことからのさい帯血バンクの体制の改善、採



取方法についての技術的なことが聞けて参考になったなどの意見がありました。また意見交換会については、

ミニ移植受けた67歳と59歳が登壇

虎の門病院を中心に精力的に行われているさい帯血ミニ移植は、55歳を超える高齢者に対しても安全な同種移植を提供できる可能性があります。同院でさい帯血ミニ移植を受けられた67歳の松本康志氏と59歳の木本敏氏が壇上に登場され、その経験を語られました。

お二人とも本来の病状も落ち着き、体調もすこぶる良好であるように見受けられ、同院血液科宮腰重三郎医師による高齢者に対するさい帯血ミニ移植の紹介も行われました。大量の抗がん剤や放射線を使用せずに同

時間が短く発言ができなかった、他の病院も同様の問題・悩みを抱えていることから、またそれぞれの地域で意見交換会の開催を望む意見もありました。



松本さん(左)と木本さん

種免疫反応で原病を治療するミニ移植の原理、50歳~65歳の高齢者30症例の今後に期待できる成績と現在の問題点および今後の解決策などが報告されました。さい帯血ミニ移植は年齢やドナーの壁を越えて大きく発展する可能性があります。

献血・骨髄移植推進委員会 2万6656円

ご寄付をいただきました		献血・骨髄移植推進委員会 2万6656円	
■ 5周年記念事業協賛金 (寄付金)		丸木医科器械株式会社	1万円
中外製薬(株)	50万円	武蔵野赤十字病院産婦人科	1万円
エア・ウォーター(株)	30万円	喜多嶋康一様 (岡山県)	3万円
医療法人社団 博栄会	20万円	西平 浩一様 (神奈川県)	2万円
池下レディースチャイルド		森山 弘子様 (東京都)	2万円
クリニック	10万円	高梨美乃子様 (東京都)	2万円
森永乳業(株)	10万円	渡辺 力様 (徳島県)	1万円
藤沢薬品工業(株)	10万円	渡辺多衣子様 (千葉県)	1万円
総合母子保健センター愛育病院	10万円	米谷 収様 (兵庫県)	1万円
東京衛生病院	10万円	三星 勲様 (東京都)	1万円
(株)ムトウ	5万円	鎗田 輝子様 (神奈川県)	1万円
		三品雅義様 (愛知県)	1万円

オンライン申し込みへ

日本さい帯血バンクネットワークに参加するさい帯血バンクが保存するさい帯血を検索した結果、移植に

使いたい場合は移植登録病院の医師が申込を行います。申し込み方法は現在、そのさい帯血を保存しているさい帯血バンクにファクスで行っていますが、来年の2月からはオンラ

インで行うことに全面的に移行することになりました。登録病院(診療科)にはオンライン申し込みの詳細について、近くご案内をすることになっています。



いのち
生命の幸せを感じてほしいから...
 新領域に果敢に挑み、さらに多くの人々に信頼される **NIPRO** をめざしています。

Medical supplies for the world population

ニプロは、創業以来、「技術」を基盤として発展してきました。つねに、その技術の分野では世界一となることを目標にしてきました。医療器、医薬品の各分野で、現在も「これならどこにも負けない」という技術を追求しています。そして、ニプロには今、必ずや実現すべき夢があります。遠くない将来、世界有数、いや世界一の医療メーカーとなること。ニプロが世界のエクセレントカンパニーになるために...





1019例の成績解析

わが国における非血縁者間さい帯血移植はまもなく2000例を超えようとしています。最近では成人、特に50歳以上の高齢者における移植数が急速に増加しています。しかし、その成績はまだ正確には把握されていません。移植データ管理小委員会（中林正雄委員長）では、これまでわが国で実施された非血縁者間さい帯血移植の移植結果を全バンク共通のデータベース化として、詳細な解析を行えるように整備を急いでいます。今回、5周年記念大会に際して、移植結果が判明している1019例における移植成績の解析を行いました。

1. 年齢構成

1019例の年齢構成をみますと、10歳未満が37%、10代が12%、20代が9%、30代が11%、40代が11%、50代が14%、60代が6%、となっており、最近の成人での移植例の増加を反映する構成となっています。

2. 疾患構成

疾患の構成は急性リンパ性白血病が28.6%、急性骨髄性白血病が26.4%、骨髄異形成症候群が13.9%、悪性リンパ腫が8.9%、慢性骨髄性白血病が3.6%、先天性免疫不全症が3.1%、再生不良性貧血が2.4%、先天性代謝異常疾患が1.9%などとなっています。

3. 無イベント生存率

骨髄移植やさい帯血移植などの造血幹細胞移植における成績の科学的な評価方法としては、粗生存率、無病生存率、無イベント生存率などが用いられます。

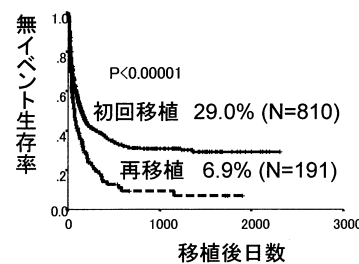
粗生存率とは、「生存している」か「死亡した」かのみで評価する方法で、生存者の中には白血病などの原病が再発してはいる患者さんたちが含まれます。無病生存率とは、再発なしで生存している患者さんたちだけを「生存」として評価する方法です。しかし、この方法でも移植した造血幹細胞が生着せずにご自身の造血が回復していながら再発せずに生存している患者さんたちが生存者に含まれることとなります。このような自己回復した場合には移植としては失敗していることから、真の意味での「成功例」とは言えません。そこで、移植した造血幹細胞が生着をして、原病の再発なく生存している方の生存率を無イベント生存率(event free survival、EFS)とし

て評価する方法が最も正確な評価法とされています。

今回の解析ではこの無イベント生存率により、1019例の解析を行いました。そのため、これまで発表されている成績などよりも数字の上では下回っていますので、過去のデータを比較される場合にはご注意ください。

厳しい再移植成績

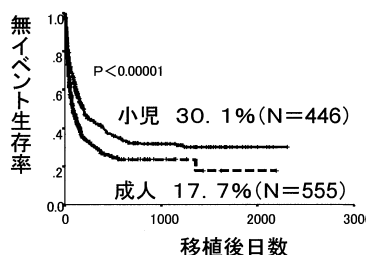
初回移植例と再移植例の比較



さい帯血移植では骨髄移植などの他の移植が失敗して再移植として行われることが多く、今回の解析でも約5分の1にあたる191例が再移植例でした。初回移植の810例と比較しますと、無イベント生存率に20ポイント以上の差があり、この結果が全体の成績を下げていることが分かります。

小児が成人上回る

小児と成人の比較

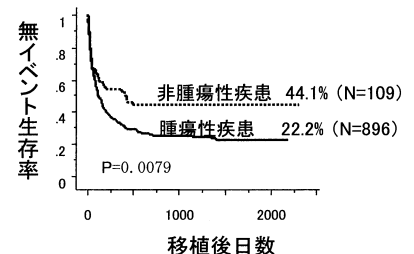


0～15歳の小児と16歳以上の成人との成績を比較しますと、成人では17.7%の無病生存率で小児よりも劣っています。成人では病期が進んでいる腫瘍性疾患の症例がほとんどで、

体重あたりの移植細胞数も小児よりも少ないことなどが、両者の成績の差となっているものと考えられます。

原病の再発が影響

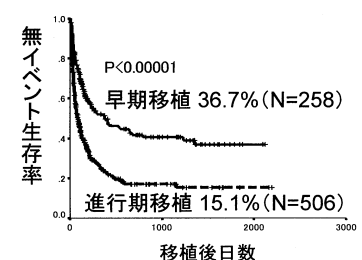
腫瘍性疾患と非腫瘍性疾患の比較



非腫瘍性疾患では生着率が低いという問題点がありますが、生着をした症例における生存率は腫瘍性疾患よりも高くなっています。腫瘍性疾患では生着しても原病の再発などによりその後の生存率の低下があるためと考えられます。

病期が結果を左右

腫瘍性疾患の移植時病期による比較



腫瘍性疾患を移植時期によって「早期移植例」と「進行期移植例」とに分けて解析しますと、早期移植例36.7%、進行期移植例15.1%と20%もの差が認められます。移植時期によるこのような差は骨髄移植や末梢血幹細胞移植でも同様に認められており、さい帯血移植でも条件の良い病初期に移植をできるかということが移植結果を左右していることが分かります。



事業参加で意欲が向上

採取病院
訪問記④

東海臍帯血バンク

東海臍帯血バンクの提携採取施設（産科病院）は、わずか4つしかありません。名古屋市内にある星ヶ丘マタニティ病院と名古屋第一赤十字病院、国立病院機構名古屋医療センター（旧名称：国立名古屋病院）の3施設と豊田市にある鈴木病院です。日本さい帯血バンクネットワークに参加する他のさい帯血バンクと比較しても4施設という数は一番少ないのですが、この点について東海臍帯血バンクとしては「現在の採取保存計画では、この4つの採取施設で十分に必要数を確保できているので問題はなし」とのことでした。

2施設頑張り7割

この4施設の中でも、星ヶ丘マタニティ病院と鈴木病院の2施設は、他に小児科などもあります産科中心の病院です。この2施設によるさい帯血の採取数では、昨年度の実績で東海臍帯血バンク全体の7割にのぼり、細胞数の最低基準や感染症検査などをクリアして暫定保存に至る数では8割に至るほどですから、東海臍帯血バンクの中でも採取施設としては大きな地位を占めています。今回はこの2施設を訪ねました。

多量の採取に努力

星ヶ丘マタニティ病院は、名古屋でもちょっとセレブな町・星ヶ丘にあって、産科だけでも個室を中心に53床あるおしゃれな病院ですが、

設立から25年を経過した名古屋ではよく知られた病院です。石丸忠敬副院長によると「さい帯血の提供をお願いして断られることはほとんどありません」とのこと。採取数や採取量の良さについては「出産からなるべく早くさい帯をクランプし（はさみで止め）てたくさん採取できるように努力しています」とのことでした。

「満足感と安心感」

出産間もない2人のお母さんにお話をうかがうことができました。石井晴美さんは2度目の出産で「前回の時は早産で提供できなかったのですが、念願かなって今回はさい帯血を採取してもらえて満足しています」と語っていました。また



石井晴美さん「2人目で提供できました」



白井温子さん「2倍も量があったそうです」

「ふつうの2倍のさい帯血が採れたそうです」と笑顔で語る白井温子さんは「無事に赤ちゃんを産むことができた安心感だけで、さい帯血の採取のことは何も覚えていない」そうで、その辺は皆さん同じ感想の方が多いようでした。

妊婦の要望受けて

鈴木病院は東海臍帯血バンクの4つの採取病院の中でも、一番新しく5年前に提携施設となりました。鈴木清明院長によると「妊婦さんからの要望が強くて、私たちのほうからお願いで採取病院にしてもらった」のだそうです。鈴木病院はトヨタ自動車の企業城下町・豊田市にあります。名古屋からは高速道路を使っても車で1時間はかかります。ここでは年間1800例ほどのお産があるそうです。さい帯血の提供呼びかけは、妊娠初期の母親学級で行っています。最終的な提供の説明と同意は出産間近になってからですが、採取できたと告げると「ありがとう、よかった」と皆さん満足感があるようです。また、鈴木院長は「さい帯血バンク事業への参加はスタッフの意欲をあげている」とも語っていました。

外国人も多数提供

鈴木病院は出産費用を比較的安価に設定してあるためか、近隣からもたくさんの妊婦さんが集まるそうです。大きな待合室には外国人の方も目につきましたが、外国人の方もたくさんのさい帯血を提供してくださっているとのことでした。

善意をお待ちしています。

日本さい帯血バンクネットワークでは、広く皆様からの善意を受け付けております。ご寄付はすべてさい帯血バンク事業のために使われます。<寄付受け付け専用口座>
郵便振替口座番号 00180-9-57390
口座名義:日本さい帯血バンクネットワーク

あ と が き

満5周年を迎えた日本さい帯血バンクネットワークは1999年8月に発足しました。それから、少しずつ組織が整備され、広報部会が設置されて本誌『さい帯血バンク Now』が創刊されたのは、2年後の2001

年9月でした。その後、隔月に発行を続け、今号でちょうど第20号となりました。今後とも、より深いさい帯血バンク関連情報の提供に努めてまいります。本誌では読者からの寄稿も募集しております。身近な話題などの原稿をお寄せください。お待ちしております。